

### 第3回計画部会における主な指摘について

平成18年8月25日  
宇宙開発委員会事務局

#### <地球環境観測について>

長期的かつ総合的な地球環境観測を全て行うための十分な予算がない中で、いかに効率的に行い無駄をなくしていくのかを考えるべき。

実利用の観点から、研究者だけでなく、災害現場、環境保全の現場で作業している組織から広くニーズを聞くことが必要。

我が国として、どの分野に力をいれるのか、継続的な戦略を立てて取り組むべき。

蓄積されたデータの続 化の標準をどこに置くのかによって、その後の利用性が変わってくることに對する考慮が必要。

衛星の観測データが原則公開されるのであれば、国際的な視野で議論をすることが必要。

#### <災害監視について>

技術ロードマップも重要だが、まず利用ロードマップを作り、それにどう対応していくのか、行うべきテーマとその効果、またそれらの優先順位付けが重要。

災害時の現場観測と、予知のための常時観測及び全地球規模の観測は切り分けて考えるべき。

衛星以外の他の代替手段との費用対効果の比較が必要。総合的なシステムとして考えるべき。

議論の対象を日本だけに閉じるのではなく、世界全体で宇宙開発に使われている予算の中で、日本はどの程度の予算を使っているのかを考慮し、日本としてどの分野に一番寄与できるのかを考えることが必要。

ウェブ等を通じて非常に手軽に情報が共有できる仕組みを提案することは、我が国が尊敬される国になるという意味で非常に重要な役割を担う。